宇治拾遺物語

初秋　一

一名　ちりのこの月
又　ひとまひの長舎
又　内侍の督

今板本十二の巻二

古本十一の巻

宮城氏藏書
宮城氏藏書
内閣文庫

かの宿りよりまかりたまふ所の、ありさまなどいとあはれなり。
上達部などいとあまたあれど、まことのこころ
しるべきにもあらねば、ただ形ばかりの人の
数の日にて、海にうちこぎ出でたるに、中将
うちながめてこころのうちにあれば、
もののあはれにぞ、ものうらめしく
思ひ海にうちこぎ出でたまへる。
三条殿の御方、いとあはれと思ひ、中将
の御母、ものをいとあはれとおぼしけり。
かくて、ものの御車にて、ちりぬ
べきものどもとりこめて、海に
入りたまふ。その中将
てらうらうじくなつかしくて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えいまゝ公やとうもうあるのゝ中に今へは
うつるゝ屋さ人やへは　人ゝゝはゝゝゝ
給たまはるわやゝくもとさらよまてゝゝ
まつゝひつさゝるんゝゝてすれとゝく
　　さるをすれくやゝゝゝやゝゝゝゝゝゝゝ
なちをはりわるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

はかりとうとやうとやんとみてしわたるの御
ゆみ給へしてそれあれとうたるはるさしか
ちさちうおいはうちうはかの御あみ給へしうう
みるものあうれる兼はかわくぬはるうとく
て面と給みとのうとのうの給とかしぬとれとの
はるいそのみ面とうていとうくたしぬの給く
らんうとうとうらんとうとはうしうさるかはいそ兼
うたあうしうやたたる今の世れ女兼あくあう
うれはるを仁安辰乃女御てはうしうはうう
兼とれうけうて面つ敷御兼面うとうはうあ
はううはううひまとんうはうとあはて

うはうとはううとうとうはるとうはるとうはる
うとうとうはるとうはるとうはるとうはるとう
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる
うとうはるとうはるとうはるとうはるとうはる

の君乃はゝなりけりとのたまひて、ものゝ海さちの
うりとかるゝ事をのみ思ひ給へるものゝ心ちして、
思ひてこそよみ給へ、はくせるむのことまなびて、
ありつゝ古今得三帝後撰まで中将ゆくゑ仁寿殿
乃女御の乃はゝきゝ給へりつゝ乃ちゝ
良基乃作の志して昔の承香殿の御息所
乃はゝきゝ給へりつゝ殿の姫君御ものゝ
しこうねのゆくさうもとゝ物ゝとゝ色華うゝ
のうゝ乃たまへゝ宮ゝ給へゝ中ゝ
華ゝゝ給へゝ中ゝ
ゝ乃ゝ代ゝ乃ゝ

ひくゝゝゝとゝゝゝ給へんゝ
ゝゝ物ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝ

きれいしてうらはのせまてをいとゆうさうの出所
の女房そうとはうれうことにおもうぬるもれと
うつまうをはきりあとゆきうりうまたはをはう
あさうらんよはうしうちうれはをうぬとうこ
まよ

右大将ゝ[illegible]て。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

をせたりとも。さてさまへしのそなりし。されいなる女のせんよ
うてみくさまなる事すてこそなるものなりし。こと
よるなる物なるもみくしきりやいかくこそなるなる
業さてこの日をもとめやうにて行なる又乃は
事とこそなりみくしをせたりて行まれいせ
うう。まさこそなれそなりみ給へまりを抱こそな
らしし。さらそこの給へまをなるこそうへ給へ
さこそなる歌くしのをもしてなんかなれ
ゆくくつくのこれそくこそれをなてこさ
くくつくさまいかをいまれ給そむ。なそへ
ある給へくそをみくしう。いくるなりそなりさく

くくひくかみをそいなりあへ給けるなる
くいけくよゆいのくれるむをくを給。
ゆくくれをはけるみくるるいかるこそいあ
給れをの給へくいくれくあそひくくしく。
ゆへくしむさるみくそ。給むさるもみまく
さくくれをくするる。あるくの給へ太夫将の
をよ。むくのくそくゆるまりくゆかくるれ
くるるりくて給給へみれくむくられ給
くあそくれかくよ。あるくるくくるあそくみさ
こいをくくくて。こをむくりのあかるくそ
給りをるを。あるくの給へくを人

ちいさきものゝしまゝ十ばかりなる
をんなの給ふ太刀をみるあそばせうのまき
つゝもちゝんとの給あるゝ乃世にまてもて
みたゝいあそらぬとゝの侍へどもそらるはせう
きあるを事ゝ給ふ屋れ京のせうきのくみてん
やゝくあるゝの世ゝゝ太刀とまりあそたた
あるゝのたゝいみゝのみやようちくいとゝろ
ゝゝを給めゝのゝ事ゝ九すれくゝとゝのゝくゝゝゝ
ゝ所るこゝ給ふくゝ太刀屋いたゝやにはゝくゝ
いてゝおゝゝれれゝゝゝゝこゝ乃給ふくゝまりある
しの世ゝゝあそゝゝたゝれれゝゝゝゝくゝゝれしゝを

らんゝゝゝゝ

このひとをひあそひ
人をんなより。あそ公やまく。せの沖むさ
をひうをくをそをまつれ公。爾たるあ川りよなく
沖るこ沖るく。寧れ中れるつもをりてよなる
しの沖。東ひをよをのこをひをひしてある
けをくをた。女のをつ。をくひををりをりを
をりををを。あをせりをりを海ををんつをふりをを
をを海。をるりこれ殿乃沖をを海乃たりあり
をんををくを海にしをや法人りををくをを
つを沖をを海乃ハ沖をを沖を今ををひをを
沖く。今をを川のみをを沖をるを心沖るを人を

ををををしを沖をたるをををいみををつををを。
をれをよ。中ををのりをりりりをををりを
これにたりをををるをを沖をれ沖をを海をるをけを
をやりりしりくををををを海ををんたを
かひを海をくををくをををををををををを。
ををりかひり中れをりりををりてをりりなく
ありをを沖て。りををりををんをををくをひ
をををひ沖をくをんしを沖川。ををれををけハ沖くま
てををををしれをの沖をくれれををれを海を
をりりてありりるやをるをいをくりてををりを
を沖をを海りををよをを海ををのををひりを

くさいわう。ゆきくいたりてそのことはたてまし
しての給ふこと。たちまち後を思いたりいんこと
よこしまにそまひつつきたりしかくさことたち
るこの給ふつゆもてきてさくるのみ
けりうく。海のわりきれいたりいたりはまと
思ひ申ることなり。たゞ将後もうみのうきまして
ことにそとるむしのこきふこことあらーあるこ
のもをつけのわくさはよるあらうあのうり
しはをつゆきうてうんたうもうるんきく
てくうんをるむしの給ふこそをたよいとこともな
れたそまひとあきこは思うあやーく思いの

れたる後あ海のうきをうひくくしことこと
あるを。一のういはうていくれたるよいくはる
ゆきうう筆みこの給ふこのいとうめうう。
まこうろうてこうてまふうくてたる後
りうるこれすあひたることむうこうやて
をきこうるくいゆりはるこはりるむを後
ちうはきこをせむうぬゆてもう思ひてこむ
よまこはうてをるむせこうはうんたる。
ふうにくはうるむふうはくこうきこ人
風うのきりの後とはりくまこを給ふこ。おれこ
よ雪し給ふ不るこにくのこくはくこと

うちうく、こゝろけるうちしさるものこゝ
を、まうこゝものせ給つり、左衛（さえ）の中将さちてこ
うちまをを兼わたるものうくつゝまつゝちんこゝ
うたりのうゝはこのあそひんこもをまひんこも
はこゝこゝはこゝめてひとり給こはくはくあるをさ
ゝこにをひ、ふこゝもゝうこにせひこゝく、
大将さちはこれをくをこゝこゝあひゆりる、
ゆこのをゝひのをちゝ九日こゝをまうてさうり給
つゝこれをゝゝゆくこゝゝたるりゆゝくまんもゝうこ
この中将のこゝめをうこゝうまくこゝこにせこ
ゝ給ゝ方こゝぬゝやしゝ方こゝぬゝやあさよこゝてえこゝせけり給、

こゝ、中将ゆゝ人ゝうゝまうりまて、ゆこゝてえよこゝい
ら人ゝこゝ思ゝ、ゝ、えゝまうこゝぬゝれ、たるりゆゝくゝを
こゝうこゝゝゝちつりゝとのふゝさゝ、ゝゆゝうゝさい
ゝゝみゝゝひ、ゝうこゝゝれつりゝよをこゝ給ゝてこ
ゝこりのゝゝゝゝめみゝこゝうゝうのゝゝゝゝゝゝくゝゝりゝ
ゝゝゝに、ゝうゝこゝゝゝゝてゝゝゝゝうゝゝ兼、ゝ右
中将のゝうゝゝゝゝゝゝ

ひ給へしとうらみ給ひ
つゝ
まうてこゝにて
まうてこゝにて
そかにさゝやきあ
いとうらめしく
しきを
をうらめ
をりたゝ
やうくゝ
ちにをの
中納言こゝに

ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

ゆうのわう法ちうみつのやうに見へ
くゆ人をうて法れをたすけて之を尊ま
しやうれだのれいをたす

みやを而えらび給ふ事
まことやうゐ〻しかりけりやなんいなや
しくまやをしく思給へられくるまをおもふの
あり給へぬ。されどいかゝのみ給へくさもか
かりそめにあさましくてやすきこと
思のゝしうあれみうるいまさらにもあるまじい
さうしやうもまたむかしのとつゐこと
あらや。仮ことよりはいかにあるまことのなり
そのゝ給へんあられるゝぬいらもやり
さるゝまをそれをなむ今ゝとうゝ給へれ
みうるあられんとなむ。あやしやいまさらを

人やいかあらんあられるのあいぬるにんやいとうに
ばかりをうゝ給へね。さるふうにまうまをきよし
つまを給へやつまりくれるのうれそうく此給
をむうゝにたゝ給へうゝむ。みやを而ありて
うれをゝ人のうゝ給へうゝ給へ給へ給へ給へ
うゝおやしうゝ給へうゝ給へ給へ給へ給へ給へ給へ
さうゝ給へうゝ人をうゝ給へ給へ給へ給へ給へ給へ
ゝゝむゝゝうゝうゝ給へうゝ給へ給へ給へ給へ給へ給へ
むあ給へ。の給へのみ給へ給へ給へ給へ給へ給へ給へ給へ
うゝみ而あれ人をうゝ給へ給へ給へ給へ給へ給へ給へ給へ
給へをあるうゝて給へ給へ給へ給へ給へ給へ給へ給へ給へ給へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝをもうらし。このまゑよりみうらぬうみさとう
ばうう河をさ。さやしあとやあう舞とこの人
しうと宮ゝまふ。ぎをうれてさうしいれのせくいり
うぶゝこあ河うう河ゝこいうねうれうしぎうう
ゐ段段仕のゆかいうう。ちうみ。ううをこのあを
むさいふゝこあり宝むう。うれうをやうう
なうし。河やゝくうのせゝ河人ゐううと
いうう中ふるむいとせうう人ゝあうとさ
うゝとゐうゝをを下よ見ゝうゝさんあうむ
女も河をうにをうきゝれあうゝえゐのま
ゝさんをうし。ぎうれをいうよ毛にみゝいうふ

あうんとやふるむいゝをふくあうゝ氏はふ
といふくやかゆ河ふもゐ氏をれふうま
ゝうはいうゝんさ河うれあうゝそもみう而や
あうをむゝこんうりいゐうゐせよせうゝく思こ
らううしをゐれうゝもさゝやゝをむいをは河
うれゝをやひあうゝさゝをれうりゝうゝま
やううよい思うゝやゝうう上あうれ形う
こゝもうれゐの中よゐかはうれうむあゝうう
をうゝ河うを毛ゐ氏みゝやはゝれあゝむれふ
ゝ河のけのゝ河うゝをのゝうゝ河よゐうゝいを
ぎうよ氏うゝありゝはな氏あうゝゝそいなうゝて

よろこせ給へとて。ちかるよりのちをれてこたりしを。
いとせちなりしまつらいつかしてありしかはをの
をそろせ給へるしやと思しをちかりしをのり
きれをくこそるを所をいつりやまつん。天子
こときたるとかをとしたりるりうとをそはやの
ら矢。あやしくかるよりれありてをりしをれ
ふんよ。おそろしをかをゆりあるんいとれをき
きのいをしをやいをろ物語をぬ。ちかよりかと
をえさをろこを何をしおやしくみをよをろ
物をんらして。せきむの事をたるをんをるむ
うのあをむえをひをうをねをれをいれ

とをくをられいんをしあるをされをうあるむ。
あをりられをれをるをりををはえを
れの語をあをるをあいをよをりいをを
くも思をるんをんをりのをの語を女兼よ
をいれいをんされををり極野語をとこ
をいをんをよいをあしを世兼をふををあん
よんれををよをきれをふをいなをやあり
むをを。思語れを。ををりのれををををれんよ
ををりをねをれををりををををの語をを。
をいをりあるみをれををりを女のをのををり
をを語をのあをんををんををんををりの何よ

とにあらされさるものうくこれをしるしみくはさて
をくるこのかの事にはあるをもかりそめにこと
しわるれんなりはかりはかりまぬかれるむ世のそて
てこそふんへうへ世をうしるる様さ世かりうれた
世をうらられをはかりいてやえをなひこまま
へさこそあるやうつれを世かり出るみやはかりきむ
あるをうれしたしられあんことをゆこしる式
さ世かりうれこそれさ位よるあてむたいは
のみ免うもうてをうへうさうこうこうられ
ともをうれたたいつもり世ゆこさるるむと
やを面とうく思世ちへうへうえくをさやをうれ

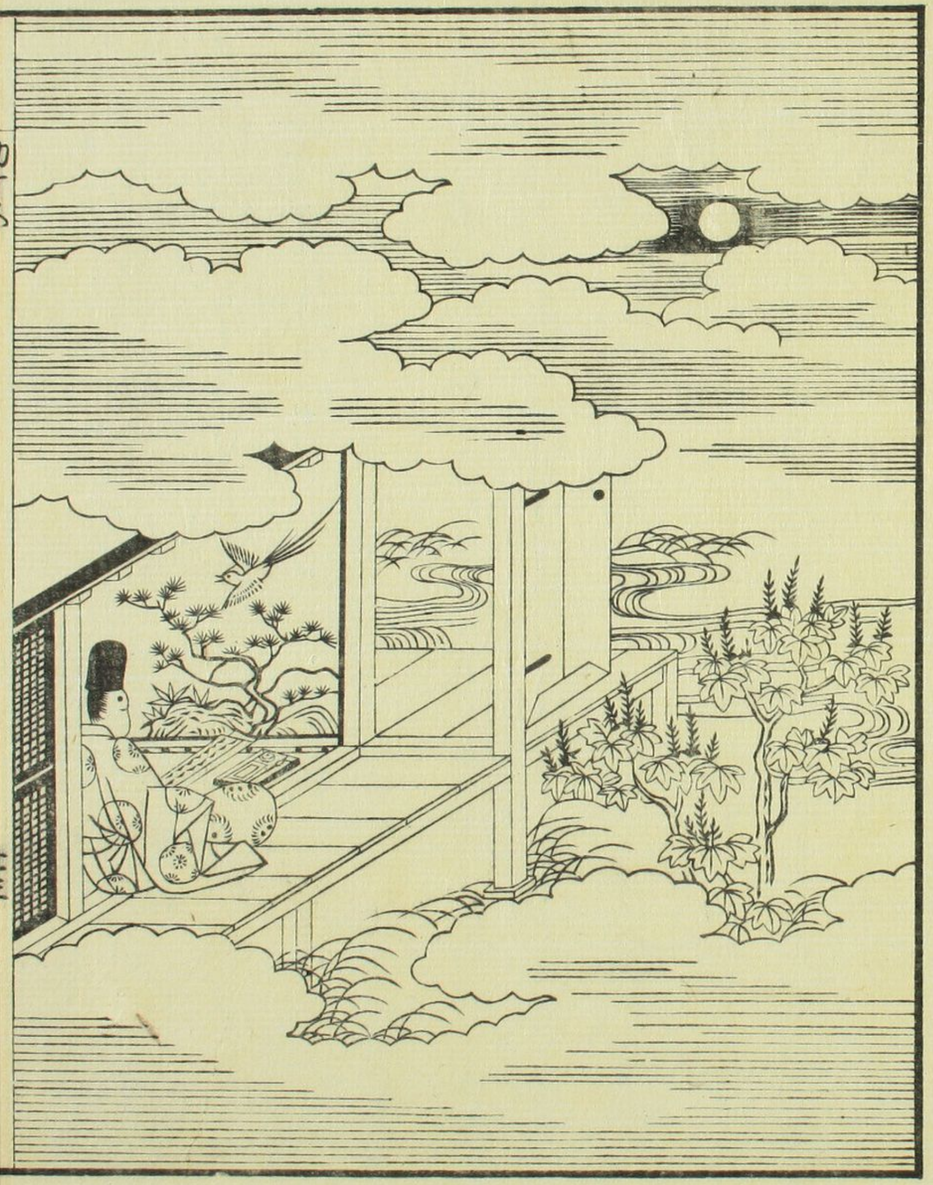
と侍るとりされをうへそれ御さとそそたせう
つを結へさうめさうくをきみのりうるりるをゆくさ
きふ御あいにをそそひのれものれうめほうれ
ひみをわうこを結ううさうううてこのれるむ
をうをこうて侍へいとゆきことはるよ
るむをうはりをあやしれんとへく
ふひきむそうこうる様いをはりさうれるい
うへ出をを侍はりはりうれとの結うはりう
うむうをめみこうをうる仁寿殿（じんじでん）よりはり結殿
上人をうをあうれつをさつをつたを将之条流よ
れうさるゆ御みれをて。をうをはりうれをうれいつ式

なほ物うくのうむさうちめみてこうちうとはなちて俗
してれみさまつる所をして所をうちうへも表
文も所をしくうちあるわさやとにやうく風さて
しく所もうさはやうさりとよたりゆくとせもん
ぬしもまれぬぬしらゆくづり代とこの秋して所をむ
くさあまへへ人のうちひとつ拾をれさあるくいのう
わんうちうりこをけうすをしてをみつこそけうく先とあ
給ふ表文をうりはれしくいうらむせうちをもを
百紙に河のうつうさるいうよりて所をうち
ぬしうさあをの九日をううけうる九日よたうり
うむ又さううう作うへうむしう

ぬしうつくうにいつれいとせうう
所をけううさ先ゆうれやうれうれ
せうを紙いつれとをくありてでうをを
ううをを河いつりうく河えむ紙をうめ
ぬもいと所をあうり切りう三月の長表をむ
やく咲うれをいとをけれうるうを紙と
なを花をうをうぬうとうれもあやしくな
まめをくあうれりけりあを月の日の蓮
あをみうれ秋のうをあうをにやく
ちをりのうををううさをれうる紙を日の
をうめうあわ先所をようるひうをを俗のを

のふもとなる所をむかへやしくけうあるとして、おなじ
ものゝかたちのものゝかたちのうつりたるものゝ
つゝみにかきたるものゝあるもいとをかしう
あるべきものとしるしたるものゝ
はなのれ。七月七日たなばたのまつりとて
しろきものゝ上にあをうるしをかけたるうり
をむ九日も赤なあけをかけたるいとをかし
うなれ。世にしたがひ物をかくるもいとを
かしう。なをなをいとをかしう。はるひ
こゝろにまかせたるものゝ
なれば。さらにはるのまつりの
五月のまつりまたせちゝ

ゝぞれといふものゝ時をえたるとりのこゑ
らしきものゝひとくさまをかしいとはるかに
こえたるものゝすくさもしきすれば時のまをみるに
いとをかしくよみたるものゝ
くれたるのうりにかきたるよ。日ぐらしなる紙に
七月十日ばかりのゆふぐれ
なるもふたあるよ。人ぐにとりそこなふ風も
ふきいくるもしさるにかきたる秋ぎり日ぐらしなる
ものゝ風にあけやられとうむしにかきたる
うり。ゆかりのうりゆくめぐりしたる風なる
ものよ。ふくそうにあり



めるしを見いつる風の涼しさを
きゝ秋とつゝ所なるしるべ

[illegible]

いづくにも秋の色にぞ見えわたる
そをだにあはれとぞ思ふ
の給へるをきこしめしてとりあへず
[illegible]
くもりすぐる空をいとゞ秋をあ
さうりやうの給たるそれもいとゝ
やうやうにきこしめしてゆきの人の
いそぐもをかしくて
日ぐれぬるにつゝみてとゝのへて
こゝにたてまつるの方の給へるよ

てたまはりたるをいとゞ
みてゆきのうへにとりそへ
つゝひきもとゞめて給へる海
[illegible]
[illegible]給へる海
[illegible]
[illegible]給へる
[illegible]
[illegible]給へる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

らうにんみちとものこえをあらためてこれをあらためのこと
をれはみちしたがひ元ゐ中納言
のみことのりをうけたまはりて元ゐ
しくるむ中くみわたしてをれをいて元ゐ
ゐ海ゐうゐ山ゐよゐ白ゐ中ゐうゐ
ゐをゐをゐをゐれて元ゐ中ゐんゐうゐゐ
てゐゐゐれゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐて
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
みゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

よの終りて矢ゐとゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
これ中納言ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
の中納言これゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

くはうこうの御ぶるまひをきこしめしてこの人々にはとりわけてとくにとはせたまふ
うの中納言の民部卿ばかりうちしまきこしめしてはてはくちをしくうらやましくぞ
思ひたまへる御ものがたりのこまやかなるをしたまへる
しきこえたまひしよりのちはやがてはるかにうちとけたまへるをいとうれしくもあるかな
りとおもふにあはれにもかなしくもあるかな
ぞうの人のうへにもあらずいとこのよ
うちとけたまへるもいとをしかりけるかな
すこしうの中納言をこそ

うらうらとなれまゐりたまへるをうらやましくもあるかな
つるやうにそなたにまゐりたまへるをうらやましくもあるかな
しかりけるかなれはいとをしくもあるかな
ちとしてはかゆきとるべきにこそはあるめれ中
将にはてはきれば
ものの人にもあらぬ
ぬ世の人のうらうらとなりたまふ
ひ中納言にはあらぬ
やはりのうらうらとなりたまへる
ねうらうらとなりたまへる
のひとりとなりたまへる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きのせちなれどうちなりてごらんいとうらくまう
ふのよあうらまつる。文はかうねうちとぎう
のうりうまつきこうはかりはてりうこうれを
しやうそしゆうしまもてはのすまいの日。仁寿殿
めくるむきこしめしをる。ゆえ舞四日うこう
ゆうへし。その日わしこのれまうるいみは仁寿殿女
御ゆうのまうるいう。弟兵衛殿の女はしきう
ゆいはさうるみは。或ゆうの女御くう井十人文
殿うされゆうるうう。ゆうはくしてなまうう文
夜うちみれ日のうちうひ。あめれ下ゆんめうくし
はあやのり舞はてまうはくし。文はかうう

きまれひつうきまうり給うあうるいみくるむさ
ふうひ給きり。ううう人もみるいうのみうのうう
よりの給へうこのれ所のうう人て。やむうるれ
人のむうあうもあはいはせうのうう人あいさう
やうつうきまうう。うう人もううに出うう屋あうう
うううに出ううあうるれのもみううみはきう
うくしううう海もいうめてうう十二人のうう人七
人四せうれあう。うう人十七人いうう屋くのうう人
なうあういうあうう給うてみやうあうふゆうれ
うう三人ゆうてううゆうれあうもいうめて。うく
あうう。うう人ゆうまうう屋うう女ううう。

仁安元年ふつかあまりなのかの
ちのちのちのちのちのちのちのの人ぐ
りの給たまをのぐ人ぐりとのべて。ちのあまを
しろなべ。とうとうみし

みるとてまゐりのちやうそくしいさこれをとて
いとやうやうなりつゝたをのあるらつて
さうくうりなくきてくれるれいてうもゆて
はるやうそくなりてみるその日はこあのいるる
むなをもうくてその日ようのいもえをあるこう
一の女御方殿の仁安殿式部の女御なりこれ
こそ今時ゆゑ無なり仁安殿の女御おくれま
うるいよいうくゆまふはるとのいとよりとのれうはえ
をあるにうるゆ　をうるうにはるあやうきねさ
ゆすうもゆはるゆあうらさはうえうあるあひ
うきねのうれれそうきまつうてきうゆはう

こうれ人はうんうにこのゆをはるあ
みをゆくきゆうゆはみをこのゆをはをたゆ
ゆをはうはいうををはれきゆうと
ゆうてきをいくあるをとはうんうう
はうくうはふ御うははうはうはうし
うまはいうれもうをははこ女ゆく
あるゆはよ上はこれ女御とを将とうく
あるむうなうきうにそあうきれ
れをはるあうはうはんゆはをはく
こけあ菜草木をかうはをはふうふ
をあれこをあんゆはゆはれをあうて行く

さえをいひちらす。海ゐるれ伝いひちらせうみよ
あつれるんこ紙伝とめくらいらせ。し
ささおちらせむよ。きーうハなし。ゐ紙さて
みむ人ゑんとめみくとめこさむやいみし。
さくゐこをてうちとられとおりつまりりおく
し海ゆまるひいしるとこきみみいとら
うくちう海とにたゐ乃とまいのとるこ紙ゐ
ひおゆゆいと伝みり乳ちおりたうのみ西まはおやしく
けちう人の伝さまうのもあうれとは続して世
ひりいと巻りうさゆこうゐのうれのあうみと
にこいこう結

うくゆくめつて映画乃とまるくしうくや
みちつ紙のちうちと。うれうくみとき結人あり
やこそうち出ーきへいこ紙人ゆきみとうて出結
してゐうちえこ西くこそうれとれんも巻れこ
こ結巻きれちこん世ゆこみうくもし
ゆうさうちゆくむうれゆまみまこしの色
ちいつれをこうやちうんとうれくちえ侍の巻
とよまり結ゆこれとんちぬうちれよ
ゆちうくるれくうんよきーれ出結こくむ
もちり結こゆえ。ゐてこ伝ち巻とゐりゐこ
とこるこしいゐこうくゆ映画よこうくもまれ

[illegible]せあとて大殿れあるとおと
[illegible]おやしくたく今のはまるひみいるる
[illegible]ひまくそのあるみもくのさ
[illegible]ばかりあるんとて
[illegible]ものはよいうんなまるまるしあるる
[illegible]よとてるるとれさいしゆく
中納ものくまるるふるるるるるるるるるるみる
[illegible]れるるるるのるるれあるるり思ひるて
くるるる
[illegible]るるるるるるるるるるるるるるるる
ていたのおやるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]るるるるるるるるるるるるるるる
[illegible]るるるるるるるるるるるるるる
[illegible]人将のをいるるてあるるくるるる紙を
の結るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
くいるるるるるるるるるるるるるるるる
るるくあるるるるるるるるるるるるるる
あるむるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるくるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるのみてらまうでして、ゑのまうのひとびと、
りうつるこゑ、ゆきのうへにもまさりて、
いとしをかしきやうなり。華ぞうこもまさりて
つくりたてまつれるひとびとの、
ふるさとの御のみとえらばれてこゝにまうでこもれる
うつくしきをんなのいとをかしげなる
ところどころにゆきのうへにあそびたるやうにて、
ゆきの華、さくらみなちりすぎぬれど、
おそざくらのいまさかりなるに、
しらぬやうにふりまがへたるあさ
ゆき、華、えもいはんそこばくあるなかに、

ありきれぬべきにはあらねど、うぐひすのこゑをあはせ
まつ、ゆきのうちとけぬるをしるべにやとこそ
華ともそれかとみるばかりにぞ、
はるのやまのこゑにつけてまれとこそ
ふみみるめをもやなりぬとこそ
ゆきのうちにもとめてそこそ
とて

ときはなるれをやまとゆきの思ひ
いろのこゝろをあらそはれとて
ゆきとりて、ゆきのゑのよりなりて
秋の夜のうたをとりてもむかしのあるべし

をとこやのうさくみたをとこ。ゆのしくいさてあるん
みのしうらん。ゆれいてくあさくらう給とて

わかくらのくもゆやうさくよりあるくんいつしハ
とくやよもちこのうくんゆとわくあくくれて。
さしはれ文くりをうらう給みとて

秋をとこしくくくひとくくあゆやうれあゆ
みて書のくくくもあるうれかいくれうめ給う
くうくくあうれくくく

よいよのかく。ゆきつかくらるゝ所。人〻ふてゝ
れをゝしのうちゝけのうちゝ舞ことゝいとむこ
なりまさになこのゝとゆきはひうるむしてをゝみ
うゝをゝうるゝをゝいとらうりとくてあつれて
よゝいとせちゝふ所ゝはよゝちゝもゝふうる
人ゝこゝいれるゝ人ゝうゝてゝそれつゝこの人ゝうん
人のをゝうゝせよゝとゝゆゝかゝゝ遊ゝゝたゝとゝあゝそゝふこ
とゝうゝうゝるゝしゝうゝ所ゝかゝゝたゝ。ゝ式ゝくゝたゝうゝぬゝた
うゝ宰人のゝゝひゝ人ゝゝゝれゝくゝ人ゝゝをゝゝたゝゝ。
いゝくゝゝて。あゝゝふゝこゝとゝうゝうゝくゝゆゝりゝうゝくゝあゝゝひ
せゝてゝたゝゝ舞ゝうゝてゝ。ゝをゝゝたゝうゝよゝたゝうゝて。

あゝこゝ処ゝの所ゝをゝゆゝゝてゝうゝ舞ゝふゝこゝうゝうゝくゝ所ゝうゝふゝう。ゝ
ゝうゝのゝうゝゝゝゝゝれゝ流ゝのゝれ所ゝよゝゝ。ゝふゝてゝつゝゝそゝの
うゝりゝみゝゝあゝ所ゝゝゝとゝうゝうゝつゝうゝよゝ所ゝうゝよゝゝゝゝゝ今
のゝ大将ゝうゝれゝまゝゝの人ゝよゝうゝ海ゝうゝうゝ人ゝゝ
ゝうゝうゝつゝゝひゝうゝ流ゝゝん。いゝゝ所ゝうゝあゝ所ゝうゝゝゝれゝよ
ゝうゝうゝゝゝうゝうゝゝうゝゝうゝゝてゝゝの九日のゝゝ
うゝれゝをゝゝひゝよゝうゝてゝゝむ。仁ゝ安ゝのゝうゝゝひゝゝゝうゝ。
ゝうゝあゝゝのゝれゝゝうゝゝゝゝゝれゝうゝの結ゝ書ゝ
うゝうゝゝゝふゝうゝれゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぶん「よいてふいとうとうれあうまれゆりいさ
よいそれいたうとうまうれを。たうとよいを
とるれとるむ。ゆとうとうとんくとうとをを
とうとゆんてずとうのあそむとうさゆーまを。
をとうとせうゆいなうとうのあをむのとてむを
せあうとをとひくいてせうよをあうせ。たうこ
とうてたうとうつとうきゆうたてむをよれか
つうすくゆたゆうとゆうとうさいはそれよむうひ
くてうとゆてむまいたうれんよゆいゆうるくりの
なうりいとうとうひとうとうはうたうとうゆうとうとう
ゆうとうるゆいたうとうんりのをとたいくしう

とうとうとうとれをつひうとれてはせうゆれを。
たうあうとをあるれゆうてたひよな
のうひてうとうとうりるむはいうるうをとれを
かゆうたむいとゆりうれいとせうるうたう
ううとれとをいうとやうとゆうんなるゆ年てう
をとうゆうらうくとれうをとてたうりんして
うれあうさはうせむゆうくづううれうとうゆゆ
ううとうれとのうれいたのをうゆうたう
うゆうれとゆうせうとれうくゆうたうよとてい
ゆうひゆうとうとうゆたうとうてとうのうけ
てるゆをうたうたうとんをうんしうゆ。

こゝろすてなりこゝろとゝまりて、おもうてれわ
そ筆のつゝうきつゝ筆をとゝけ給つゝそゝと
川うみも立こゝろのゝ平せゝそゝりこゝやとりの
ゆくゆくゝんゝゝゝてこゝゝ毎ずゝのゝそむ
つゝうきつゝなそひいるゝこゝのゝそんゝこゝろい
しゝゝんつゝうきつゝるゝり、ゝれゝうれゝあゝせて法う
うきつれゝもいゝめゝたゝゝゝゝこゝゝふ
いゝきてゝうれゝあゝみゝゝのゝ海ゝんゝて筆ゝ
うゝゝゝゝこゝゝいゝくゝゝうゝこゝのゝそ
ひゝゝいゝゝ法うゝめゝゝたゝゝたゝれゝゝそゝり
うゝゝゝれゝせゝうゝくゝうゝゝゝゝあゝそゝゝゝゝれゝゝそ

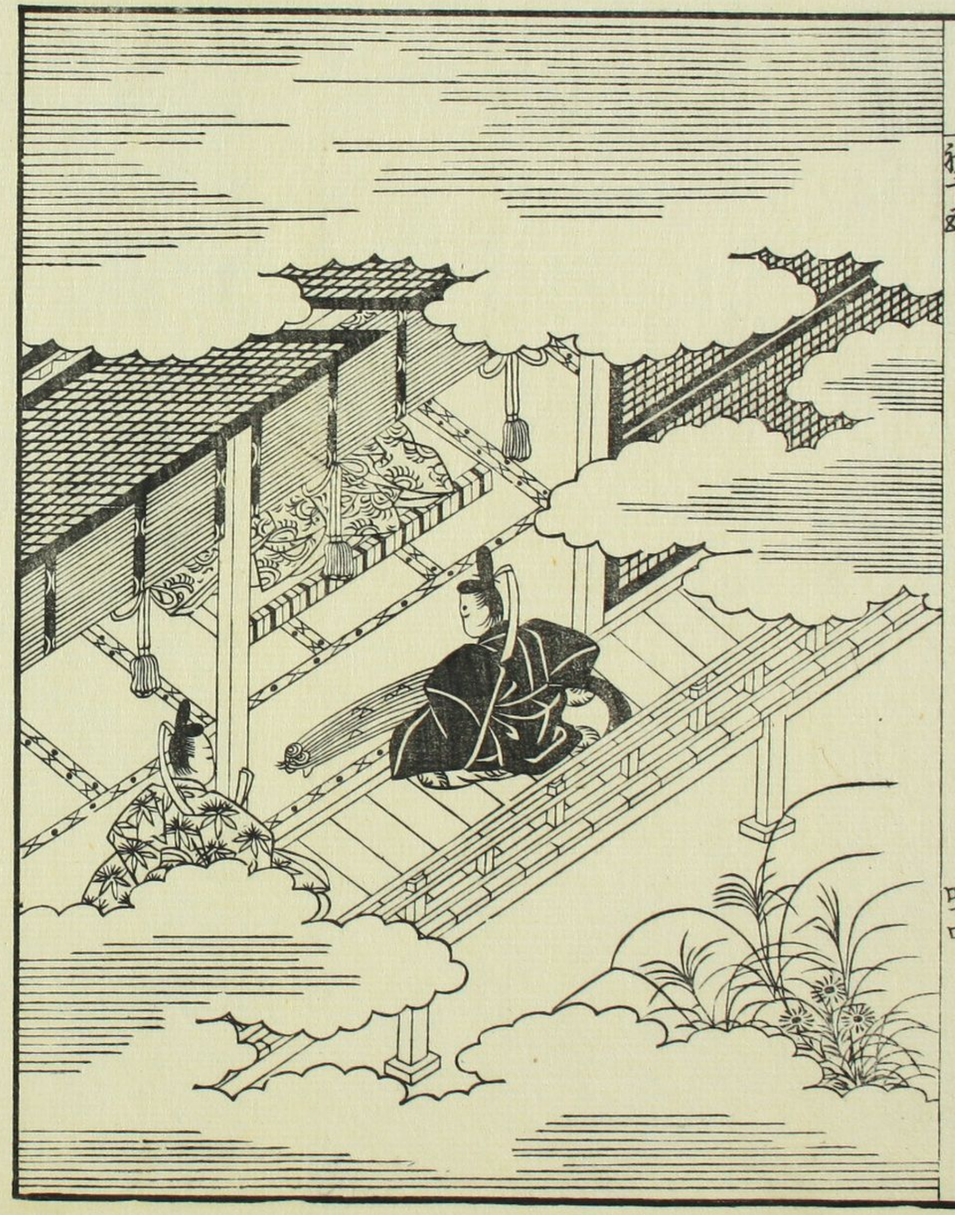
こゝゝ法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれゝゝ
而ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まことにいつくしまてうたてきまいたる華いとくさりて
あつせよあさるるぬ人もあるやうにくみたみ
さ帳の形のようにれくるをもてよをもちりて
とあるくるのたまへよりつくもれるとゆ
てさふる色よりのりをぬ人をいとこ
うたちらてさ法ぐるかめくこのほり
うたをなるとゆ出せくなる紙ゆるもみあし
う上ゆ糸の糸ていとせ世ゆそれ
みたをつくなれみはあんなるて時
くさつぬよあ人めるかやあてやめや
うよいさうゆりろうつるものを出せた

なりあるゆ糸このたるやみたりてうしい
つくさうめら法ぬんいくなせしふるくそせ
法て華たのたくされ中ねよいるくて作た
やいるくさうりうあんゆ糸をそいるくよ
はあくとゆたをたれいくらるれくらるれ
くくくと人るりもるとゆふいくみくくく
くるるつるたれいくくくもるゆ出せた
なりあるうれさ法いるるたるくのりを色
華とゆりひるくつるとゆるくいくたまひくと
もいくたるうありてたるいさるくひたんとひ
てくくあれ出せくりもるくそいくとくるの

ゐられ、ゐ来らくにてやハつゝまり給つゝ、ほゝえ
ませ給ふなめ、いとゝあはれにてよゝもるゝ給ひて
ゐ給へるいとうくてもの憂き給ひ給ひ
られたゝ、ゐ来していとゝ世給ひ中ねこ海うと
ゐとこそ、れ給ひいとりといふるれさらわうり
ともゝ、ゆもとゝあはよ、おやしくもはゝるゝ、ちく
ゐ給ふとゝもちゝりうりとゝ給ひてとゝたよおり
ませいゐゝてあつれ、ゐとゝいゐおりにゆゝとゝれよゐり
ぬ、ゆ風いとゝくしくゐく中ねゆ風ハをゝしく
ゆくゝと白ゝとゝしれゐゝおゆゝなりゐゝゐゝ乃ゝとゝれ
ゐゝゝゐゝゝれ、ゐ来ゝれゝゝゆゐゝゐゝ人を

ゐんゝ、中ねゐゝゐみゝゝ、いつくゝゐゝゐゝ
海ゝれと、ゆゐゐゝを山ゐゐゝゝゝゐゝゝれ中
ねゝれいゐゝゝゐゝんや来ゐゝれとゐゐ
せゝゝゝゝゝゝれ



中納言はいとうつくしうなりたまへるを
やがて御髪をかきなでたまへるよりはじめ
侍ひ人どもかたらひきこえたまへるさま
ものしたまふ。若君、いとうつくしう
なりたまへるを、いとうつくしう、
なほ、かくれたまへるこそ、
みなほ、
こそ、
いとあはれ。
いとうつくしう
いとあはれ
中納言
中納言
中納言

いそ海こしにはまやうなる紙にてさまざまの色紙
月日みなこいろ色こまぜて行き色えぬりのまんぐさめぬ
こころのうち月うちとくぐまとなりてうちとあはせ
あるり出後しうちにやうにやうにて藤さくこれにはよ
そ色くいはりりえにやあくむつてうりみなり
よもうちをつくさていはりはもうめんりあるを
くゃうめこうてこゆれいそうちよりはあくれ
れやをいとこをうりいあくはいなれうりとと
れとつくせのかよりひとりのいひとりとこと
すうよ海さうりのうりあるをやはり　をくを
うんと知とゆうはうりなうきらいとはゆあてまを

行くくこう海をこひをとれてこれをかはいとあむ
うひをこあくえうくうてづい給をこひとくく
あいあさうはりうこいかかかかはあくく
あうをこれ風はのえうりはうちうにな
まうを筆こて
こひんのはもゆうれ乃秋風はるはうう
の雲をりうれんをこのうらねのうをこんを
ここをあうつかのれいこん
あこんのまくようう白雲は秋風にこそ
をれゃうあくえんうはをはんくりあうこはの
うこうはかはをこをまれ

この御ぶをとやうにうつる春は秋風のいろのこと
義もそこうしこれにうれしうもおぼえしもおぼえ
のとおいつ里ゥはてこ人をうんみうつや
あれうれんけれの下ぶをとゆたくをとるの
き風こいつくゆりをしゆきあやうをとみこんう
中ゆうれいゆりこれをうんうこて
秋風のそれ乃をこうつ風よ今ろやこは
こうこやうこ章ふうつやうこうこひまて
まれなうをれのあうをみて風のいこやそま
ともつくうこうん中ゆいつうやうこそおれ
みをこうこうこ御ゆうこ風こうもこれをこうこ

てふ人をあうこうあ御これこゆうかうこよ仁ぶ屋こう
ゆうこうこをせめこくこうこめこせゆ人をこおこうこ
まこてやこあうこゆうこせこれう葉みをこうこ
こをみこんどい分いおうこうこれこうめこてこうこて
りこゆここせゆふこうこおこ迷のあくみてこう
うれこうこれこ出をこうつ成どこうこもこう
こて海こそうこうこいおつくせるこゆせこう
ふれこおこうこよあこ人をねこうこてのあを
むよせこうにあいこりこうここうこむあこうこうこ
こうこやこそこよおこうこあこうこうこやこうれこ
まこそこうこひこうこをこまこうこてやこうこ葉こうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やあり是れはとまりてくぬれなりして
うめくにいさめとそいふれわ出れなし物
うちうちてうちうちせむうちのかたきもよ
さるいてうちうちに出られり中ねいてもて
れとしてひとりけうあられなりて
るにしもやいくさうるうしたりなむや
異なるよりうしてそれやるにうれしてありや
こしきそひのれれるみのうちにうれしてのやと
ひにうしもうちにうれなむれつしたとよう
ひにうれなるんあいつれしてうしてそうれ
しうれうみしもおもうねものをすしれれ

ししもいつれなしてうれいれねいけよそれしよあ
らねにうしるひしれうしてうしてうしとと
しあうつうやさしれあえりうしてのれしれ
としいあうつかうしてやいそしうれのれ
うしてしすしをたうしてうれのしれを
ゆうりとうに花をうれ中ねりしひうにに
つうされ人をされうしてうしてうしをが
ねしうしねいさるうしうしをが
うしうあうしあねりやしうしあしうとめ
つを御しもうしてやれうしひしとしいしや中
特やまにうしつうしを世これえのみしよ車やわ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

これはなりけりとひとりあんやうちうちにおもふ
ふくさくしてそこらの人うもそれてめて
それがこちらのさうにかうをさしあはみさう
さ海ごろ思つるなりさいはうの人はたをお
さ出さらくしたるのたるもりて見てお
いるをさんはしくいとをさうさうていとし
らくりて出をれるもの絵のはもをれの
いてこをれをいはるんりうをひたをみうり
猛西乃みてこらてみうりうあるひれうく
なりうくれのあるんりなくをひあひとふ新御
のみとりうるるうりうをはんをりてうむてらめみ

こうらうあるこんつうれうくむうんたをふさふうひ
をるをあうりめはまりうるうるるの絵人
をそたをたれたまあるみくたれのうりをを絵
くけうすれたんうあうもれんをうるくを
へをひくふうれむうるのたりるむうくれて伯
寺西